

投稿の手引き

I. 投稿の要件

1. 本会誌は、東北矯正歯科学会の機関誌（略誌名：東北矯歯誌）で、年1回10月に発行し、歯科矯正学に関する論文、大会抄録、会報、その他を掲載する。
2. 本誌への投稿は本会会員に限る。ただし、編集委員会が認めた場合はその限りではない。
3. 投稿論文は他誌に未発表のものに限る。論文の種類は原著、臨床、調査・統計、症例報告、クリニカルヒント、その他とする。
4. 論文は和文または英文で、できるだけ簡潔に記述されたものとし、刷り上がり10頁以内を原則とする。論文は表紙、要旨およびその英訳文（abstract）、本文、表、図（写真）および文献で構成する。
5. 和文論文は、手書きの場合は、A4版400字詰横書き原稿用紙を使用し、平仮名、常用漢字、現代仮名づかいを用いて明瞭な文字で記載する。

パソコン使用の場合、用紙はA4版とし、1枚につき25字×25行の625字横書きとし、上下左右に3センチ以上の余白を設ける。文字は明朝体12ポイント程度とする。

英文論文はA4版用紙にダブルスペースで印字する。

6. 原稿の末尾（文献の後）に連絡先として、氏名、所属機関名、住所、電話、FAX番号、メールアドレスを付記する。
7. 投稿原稿は内容・体裁が整い、ただちに印刷できるものでなくてはならない。とくに論文処理後の内容の修正、変更は許されない。

II. 投稿の手続き

1. 原稿の送付先は、東北矯正歯科学会雑誌編集委員長宛に書留郵便で送付する。
2. 原稿送付の際に本紙所定の投稿票（本紙とじこみのもの）に必要事項を記入の上、原稿にコピー3部を添付する。また投稿票記載のチェック項目を確認すること。

パソコン使用の場合には、使用ソフトウェアと、ファイル名を明記のうえ、CD-Rを添付する。

3. 原稿は、表紙、要旨、abstract、本文、文献、脚注、付図説明、表、図の順に一括して左上端をとじる。な

お、投稿票はとじない。頁番号は表紙を第1頁とし、付図説明、まで通し番号を付ける。

4. 投稿にあたって原稿（表、図を含む）のコピー控えを手元に保存しておくこと。
5. 編集委員長のもとに原稿が到着した日付をもって受付日とし、著者に受付証を送付する。投稿規程および本投稿の手引きに当てはまらないものについては修正を求めそれが完了してから受付証を発行する。
6. 各巻1号は、6月末日までに受け付けた投稿論文について掲載する。投稿論文については編集委員会で内容を審議し、採否および掲載巻号を決定する。受理論文には受理証を発行し、掲載巻号を通知する。受理論文は受付順に掲載する。掲載にあたっては、受付日付を印刷する。

III. 表紙の体裁

1. 論文には表紙をつけ、論文表題（和文および英文）、著者名（ローマ字表記を併記する。姓は大文字）、キーワード（5語以内）、ランニングタイトル（25字以内）、受付年月日（日付空白）を書く。所属（必要であれば指導者名）は脚注として別紙に記載する。
2. 著者所属機関名は大学の講座・教室・分野名、研究所名、および病・医院名（公式なものを用いる）とし、表紙右下端に「脚注」として朱書きして別紙に書く。

共著の場合、その所属機関を区別したい時は、筆頭著者と所属を異にする共著者名の右肩に*印（asterisk）を付ける。異なる機関が3機関以上の場合には数字⁽¹⁾を右肩に付けて区別する。

3. キーワードは、5語以内とする。
4. ランニングタイトルは、本紙奇数ページ欄外に印刷されるもので、25字以内とする。和文論文では和文、英文論文では英文で記す。

IV. 要旨および abstract

1. 本文の前に600字以内の要旨、ならびにその英訳文（abstract）を付ける。症例報告、クリニカルヒント、その他についてはabstractを付けない。
2. 要旨およびabstractの内容は、論文の概要が理解できるよう研究の目的、方法、結果、および結論の主な

ものを簡潔に要約する。

V. 本文

1. 本文は、ページを改めて書き起こし、和文論文では平仮名、現代仮名づかい、常用漢字、数字はアラビア数字を、計量単位はSI単位系（付録参照 当分の間はC.G.S.単位系での表記を認める）を用いて明瞭に書く。学術用語は、「学術用語集 歯学編、文部科学省、日本歯科医学会共編（増訂版）」、およびそれぞれの学会学術用語委員会選定のものを用い、和訳しにくい用語以外は日本語で表記する。外国語はすべて原綴りとしブロックタイプで表記する。句読点、カンマ、ピリオド、括弧は1字とする。

2. 原著の場合、本文は「緒言, Introduction」, 「材料ならびに方法, Material and Methods」, 「成績または結果, Results」, 「考察, Discussion」, 「結論, Conclusion」または「総括, Summary」などの順に見出しを付けて、論文内容をできるだけ簡潔に記述する。それぞれの見出し（ゴシック体で印刷する）は各章の冒頭、行間中央に記載する。

3. 原著本文のそれぞれの項目の内容はおおよそ次のようなものとする。

1) 緒言

研究の目的、それを取り上げた動機およびその背景となるこれまでの研究との関連を記述する。

2) 材料ならびに方法

実験または観察に使用した材料および方法について記述する。とくに新しい方法についての考察があれば、理解しやすいように説明することが望ましい。材料、方法についての考察はここでは述べない。ヒトを対象とする場合はヘルシンキ宣言、また、動物実験は「動物実験に関する所属研究所機関の指針」を遵守し、その精神に基づいて「倫理的に行われたこと」かつ、「患者あるいは被験者との間にインフォームドコンセントがかわされたこと」の明記および倫理委員会の承認番号をここに明記してください。

3) 成績または結果

表、図、写真などを活用し、本文では実験または観察によって得られた結果の主要点を述べ、結果についての考察は行わない。

4) 考察

前章までに示されたものについての客観性を立証し、この研究で見いだされた事柄のもつ意義（意見）を述べる。さらに、他の関連論文で示された結果との関係を比較考察して、その評価を行う。

5) 結論または総括

この実験または観察で得られた事柄を総括して簡条書で記述する。もし要旨ですべてが述べられている場合には本章は省略できる。

4. 謝辞、学会発表、研究費出所など特記事項があれば、結論または総括の末尾に付記する。

5. 節、小節などの書き出しは記載例のごとくにし、その見出し、小見出しの区分記号は大体 I, II, III, …, 1., 2., 3., …, (1), (2), (3), …, (a), (b), (c), …, の順によるが、必要に応じて両者を組み合わせても差し支えない。

なお、編、項、節、などの見出し語は用いない。

6. 欧語は人名、地名、固有名詞、略語、とくに慣用されているものは大文字で始める。また、普通名詞は文頭にあるときには大文字で始めるが、文中では大文字を使用しない。

7. 数字はアラビア数字を使用して、1字画に2字程度書くのが望ましい。「第一、第二」、「一次、二次」、などはアラビア数字、漢数字のどちらを用いても差し支えないが、歯種を示す場合（第一小白歯、第二大臼歯など）は漢数字を用いる。

8. 動植物の名称は原則として片仮名書きにする。生物の学名（欧語）は2名式命名法によりイタリック体（アンダーラインを引く）で記し、たびたび使用する場合は再出以後の属名を略字とし例えば、*Micrococcus tetragenus* を *M. tetragenus* としても差し支えない。

9. 化合物名は日本科学会の定めた化合物名日本語表記の原則に準拠して一般名で書き、商品名では表記しない。実験等に使用した機材で商品名の記載を必要とする場合は、○○○（製造会社、型番号）と表記する。

10. 計量単位は原則として国際単位系（SI）による表記とするが、当分の間はC.G.S.単位系による表記でもよい。単位記号（ローマン体で印刷する）には省略のピリオドおよび複数のsは付けない。（例：N, MPa, cm, g, s, °C, その他 mm, m, μm, nm, cm², l, ml, kg, g, mg,

μg など)

11. 略語、記号には国際的に慣用されているものを用いる。略号として通常使用されるラテン語は、必要な場合はピリオドをつけ、イタリック体（アンダーラインを引く）とする。（原稿記載例：et al., i.e., in vivo, 印刷例：et al., i.e., in vivo）

12. 本文中に文献を引用するときは、著者の姓（名前不要）をあげ、その右肩に文献番号をつける、著者名を明記する必要がないときには省略して番号だけでよい。

記載例

- 1) 山田ら (1993)¹³⁾ も示すごとく……
- 2) ……とされているが^{1,2)},
- 3) ……と報告されている¹¹⁻¹³⁾。(文献が3つ以上連続する場合の表し方)

VI. 文献

1. 引用文献は和文、欧文の区別なく、引用順に並べて一連番号に付け、本文中の該当箇所にも右肩にアラビア数字で肩括弧をつけて示す。

2. 文献は、引用順に並べて一連番号をつけ、本文中にまとめる。本文引用箇所に片番号をつける。

文献の書き方

雑誌 著者名：表題、誌名 巻：引用頁（最初の頁-最後の頁）、西暦年。

単行本 著者名：表題、書名、版、発行地、発行年（西暦）、発行所、引用頁（最初の頁-最後の頁）。

分担執筆による単行本 著者名：分担表題、編集者もしくは監修者名、書名、版、発行地、発行年（西暦）、発行所、引用頁（最初の頁-最後の頁）。

3. 著者名は、著者が4名以下の場合には全員、5名以上のときは始めの3名までを書き、あとは「他」または「et al.」と省略する。欧文の場合には、著者の姓全文と、名前の頭文字の順に書く。

4. 和文論文の表題は、原著者の用いた漢字と表記法に従う。

5. 雑誌名は省略できるが、単行本の書名は略してはならない。雑誌の略誌名は、日本自然科学学術雑誌総覧（日本医学図書館協会編、学術出版会刊）および List of Journal Indexed in Index Medicus (U.S. Govern-

ment Printing Office, Washington D.C.) に準拠するが、欧文誌の場合省略のピリオドはつけない。

6. 歯学関係雑誌については、「付録雑誌略名表」を参照されたい。

雑誌略名の不明なものは全部書き出すこと。とくに境界領域、他専門分野の雑誌を引用する時には、読者が容易にその雑誌を特定して原論文を閲覧できるように雑誌名表記には十分配慮されたい。

7. 分担執筆の単行本の場合は、実際に引用する部分の著者名と表題をさき書き、その本の書名、編集者などを後に書く。

8. 叢書の場合は、書名の次に叢書名、巻数を括弧で区切って付記する。

9. 何らかの事情で原著を閲覧できない場合は、実際に引用した文献とともに書き、その旨明記する。この場合、自分の文献表のなかにある論文から引用したときは、単に3) から引用と記すだけでよい。

10. 原著をみるできないため、学会発表の抄録を引用する場合は、表題の次に〔会〕と付記する。

11. まだ公刊されていない論文を引用する場合には、著者名、表題、掲載予定誌名、その巻数および西暦年を記した後、必ず〔掲載予定〕あるいは〔投稿中〕と付記すること。

12. 私信、特定会合で配布された資料など、公刊されておらず、一般に閲覧できないものは文献に加えない。

記載例

1) 藤田恒太郎：人における歯数の異常，口病誌 25：97-106, 1958.

Tweed, C.H. : Philosophy of orthodontic treatment, Am J Orthod 31 : 74-103, 1945.

2) 高橋新次郎：新編歯科矯正学，1版，京都・東京，1960，永末書店，62-65.

Graber, T.M. : Orthodontics, principles and practice, 2nd ed., Philadelphia · London, 1967, W.B. Saunders Co., 119-121.

3) 須崎一郎：伝達麻醉法；山本五郎，水木孝編口腔治療学，5版，東京，1957，小川書房，24-40.

Tulley, W.F. : Normal function of the mouth. in : Current orthodontics, ed. Walter, D.P., Bristol, 1966,

Joun Wright & Sons Ltd., 39-55.

- 4) 滝本和男：矯正歯科（歯科技工全書），第1回改訂，東京，1967，医歯薬出版，73-79.

Scot, J.H. : Dento-facial development and growth (Pergamon series on dentistry, vol. 6), Oxford, 1967, Pergamon Press, 138-174.

- 5) 武井光三：口蓋裂の発生学的研究，解剖誌2：16-20, 1927. ; 21) から引用.

Dahlberg, G. : Statistical methods for medical and biological students, George Allen and Unwin Ltd., London, 1940. ; 酒井琢朗：歯の形態と進化，一魚からヒトへの進化一，1版，東京，1989，医歯薬出版，259-261，から引用.

Tacker, G.C. : Calcification and phosphatase, J Pathol 48 : 205-223, 1934 ; cited from Eckman, D.C. : Histopathological studies on the periodontal structures, J Am Dent Assoc 44 : 111-134, 1957.

VII. 調査・統計

1. 速報として数値を公開しておきたい資料，患者数や治療に関する基礎統計，その他公開に値する基礎統計資料などの発表の場とする.
2. 調査・統計の体裁は原著論文に準ずるものとする.

VIII. 症例報告

1. 不正咬合の治療例に関する症例発表で，論文の形式を満たさないもの.
2. 症例の内容は問わないが，動的治療終了後2年以上経過し，初診時，動的治療終了時，最終資料採得時の資料を有するものとする.
3. 本文は1,600字以内とし，診断，治療経過，考察などを簡潔にまとめる.
4. 口腔内写真，X線写真などの資料を含めて刷り上がり4ページ以内とする.
要旨，abstract は必要ではない.
5. 投稿の体裁は，本手引きの要領に従う.

IX. クリニカルヒント

1. 歯科矯正治療に関連した新しい方法等の紹介，比較的稀な臨床所見等のトピックスあるいは歯科矯正学の関連分野における技術の紹介等を対象とする.
2. 原稿は4,000字以内とし，抄録を付けない. 表および図は1点を400字と換算する.

X. 脚注

1. 原稿表紙の著者所属についての記事は，冒頭に「表題脚注」と朱書きして別紙にまとめて記載し，表紙右下端にも「脚注」と朱書きしておく. 所属機関名は大学の講座・教室・分野名，研究所および病・医院名とし，省略することなく，公式のものを用い，必要があれば主任者氏名，職名を付記する. また，それぞれの英訳名称を併記する.
2. 所属機関の異なる著者名には，*，**などの符号を付けて区別する. 筆頭者には符号は付けない. 異なる所属機関が3つ以上になる場合は，1), 2)……のように数字で区別し，筆頭者にも数字をつける.
協力者などの記載は本文末尾に謝辞として書き，表題脚注としては取り扱わない.

記載例

表題脚注（朱書）

青森太郎，岩手次郎*，秋田春子*，宮城夏子**，福島秋子***

青森太郎¹⁾，岩手次郎²⁾，秋田春子³⁾，宮城夏子⁴⁾，福島秋子⁵⁾，山形三郎⁶⁾

〇〇大学歯学部歯科矯正学講座（主任または指導：△△教授）

*〇〇大学歯学部口腔外科学講座（主任または指導：△△教授）

1. 〇〇大学歯学部歯科矯正学講座（主任または指導：△△教授）

Department of Oral Surgery, School of Dentistry, 〇〇 University (Director : Prof. △△)

*Department of Oral Surgery, School of Dentistry, 〇〇 University (Director : Prof. △△)

1. Department of Orthodontics, School of Dentistry, 〇〇 University (Director : Prof. △△)

〇〇研究所（代表者職名，氏名）

〇〇診療所（代表者職名，氏名）

3. その他の脚注は原稿のページごとに別紙とし，冒頭に「第〇ページ脚注」と朱書きし，本文該当ページの右下端にも「脚注」と朱書きする.
4. これらの脚注の原稿は一括して文献の次につづる. 脚注の原稿ページ数も原稿総ページ数に加える.
5. 学会発表，文部省科学研究費補助金などの研究費出所についての記事は脚注として取扱わない. 本文末

に謝辞とともに書く。

XI. 表および図

1. 表、図（写真を含む）は、それぞれ A4 版用紙に 1 表、1 図ごとに余白を 5 cm 以上あけて 1 枚ずつ作成する。表または図ごとに通し番号（表 1, 表 2, ……）（図 1, 図 2, ……）を付け、本文末にまとめる。この際写真は図として通算する。
2. 表および図の用紙右下端に著者名（共著のときは筆頭者名）と表または図番号を記載する。また、写真は台紙に貼付する前に、写真の裏面に柔らかい鉛筆などで筆頭者名を記入する。
3. 表・図の挿入箇所を本文欄外に朱書きする。
4. 表題および説明文は、原則として和文論文では、和文、英文論文では英文とする。表の表題は表の上に記し、それ以外の説明文は表の下に記す。図の表題および説明文は付図説明として脚注の後に一括して綴る。

付図説明は、図番号に続けて表題を記述し、説明文は改行して記載する。また、1 図ごとに空行を設定する。

記載例

図 3. 症例 2 の治療経過。

A: 初診時（○歳○か月）、B: 動的治療終了時（○歳○か月）、C: 保定開始時（○歳○か月）、D: 保定終了時（○歳○か月）。

図 4. ○○○○○○

5. 表の大きさは刷り上がり 1 頁以内とし、1 頁に収まらない表は受け付けない。また、左右の印刷寸法を付記する。
6. 図は黒インクで清書したもの、あるいは鮮明な状態に打ち出したパソコン等による図に限るが、原図のトレース、数字や文字などの植字を希望するときは「要トレース」、「要植字、要写植」と朱書きする。その実費は著者負担とする。
7. 写真は、鮮明な印刷仕上がりを得るために、オリジナルの写真を使用されたい。特にコンピュータ取り込み画像のものは、輪郭が不鮮明となるものが多く注意されたい。
8. 図（写真）は、汚れを防ぐためにトレーシングペーパー等で被覆し、その上に希望印刷寸法（天地、左右）を記入する。単に縮小する場合は左右の幅のみを

記入する。

9. 組写真の場合は天地左右の余白を 5 cm 以上あけて 1 組を 1 枚の台紙に貼る。ただし、写真の枚数が多く 1 枚の台紙に収まらない場合は、組写真にする写真のそれぞれに記号、番号などを記入して、1 枚ずつ台紙に貼り、別に印刷寸法を記入した「組み合わせ図」を付図説明の後に記載する。
10. 図・写真のカラー印刷を希望する場合は「カラー」と朱書きする。その費用は著者負担とする。
11. 表、図・写真を、本文とは別のページに一括して掲載を希望する場合は、その旨付図説明に記載する。
12. 症例報告などに用いられる顔写真には「目隠し」を施すよう心掛けられたい。

XII. パソコン使用原稿

手書きによる原稿は従来どおりであるが、パソコンで作成された投稿原稿の場合には、下記の要領に従って入力・保存した CD-R を添付されたい。

1. 入力条件

- 1) 文章の段落を付ける時以外は、リターンキーによる改行はしない。英単語が行末にきてもリターンキーによる単語の分割や、スペースなどで文字数を調整する必要はない。

文献は、1 文献ごとに改行することとし、1 文献内をスペースなどで揃える必要はない。

- 2) 和文の句読点には“.”を使用し、コンマ、ハイフン（一）、括弧、記号は全て全角で入力する。
- 3) 英文は全て半角で入力する。
- 4) 図、表は印刷原稿を送付されたい。

2. CD-R への保存形式

作成した文書ファイルは、必ずテキスト形式でも保存されたい。

3. 印刷原稿の打ち出し条件

印刷原稿は、A4 判用紙を用い、1 枚につき 25 字×25 行の 625 字横書きとし、上下左右に 3 センチ以上の余白を設ける。文字は明朝体 12 ポイント程度とする。以上の条件を設定して印刷する。

4. 印刷原稿への指示

パソコンで保存されたテキストファイルでは、文字スタイルやタイプの指示（センタリング、ルビ、上付き/下付き、タブ、1/4 角、イタリック、下線、装飾、罫線など）が不可能なこと、また、外字や JIS 規格に

ない特殊文字は変換不可能なため、印字した投稿原稿に文字スタイル、タイプの指示を朱書きする。

5. CD-R の作成

添付する CD-R には著者名（筆頭者）、表題、ファイル名、使用機種名、OS システム名、使用ソフト名（version）を記入する。

6. バックアップの作成

不測の事態に備えて、CD-R のバックアップを作成し保管されたい。

XIII. 校正

1. 校正は初校および再校を著者校正とし、三校以後は編集委員会で行う。校正に当っては「校正記号表」を参考にして、朱書きで行う。
2. 初校は原稿と初校刷り、再校は初校刷りと再校刷りの PDF ファイルを著者宛てに送付する。原則として PDF ファイルにて校正を行い、メールにて返信されたい。必ず指定期日までに返信すること。紙による校正を希望する場合は、速達・書留便で返送されたい。

3. 校正時には、内容の変更、追加、削除や表図の改変、組み替えを認めない。

4. 正誤表の掲載を希望する場合は、次号発行月の3か月前までに、編集委員会宛てに正誤表を送付されたい。

XIV. 論文掲載料

1. 論文掲載料は下記の基準で算出する。

刷り上がり5頁以内の製作費は無料とする。5頁超過分については全額著者負担とする。

2. 図（写真も含む）の図版製作費、英文添削費、別刷製作費および発送費についてはすべて著者負担とする。

XV. 別刷

1. 別刷希望部数を投稿票該当欄に明記されたい。
2. 別刷作製および発送費は全額著者負担とする。

XVI. 利益相反（COI）について

1. 論文を投稿する場合は、そのすべてに対して利益相反がある場合はその詳細を、ない場合はその旨を、文献の前に記載すること。